

長崎を訪れたフランス人たち

長崎の外国人居留地で生活を営んだフランス人たちは開港当初こそ少数に留まったものの、年代を経るにつれて増加傾向をたどり、1900年時点で78人のフランス人の居留が確認されている。国籍ごとの居留人数としてはロシア、イギリス、アメリカに次ぐ第4位であった。

彼らの職業は宣教師(パネル下)をはじめとして貿易商、ホテル業、技師、パン屋、酒屋など様々であった。居住地は大浦、東山手、南山手、松ヶ枝などさまざまであった。家族連れでの居留民もあり、上野彦馬が経営する上野撮影局で撮影された家族写真も現存している(パネル右下)。

本パネル掲載の古写真はすべてCollection Christian POLAK



写真家のオーギュスト・ゴルド
(Auguste Gordes)



「A.Gordes」と記された古写真
オーギュスト実弟のアンリ・ゴルド(Henry Gordes)の頭
文字を誤植したものか



パリ外国宣教師会の
ルイ・テオドル・フーレ神父
(Louis Theodore Furet)



パリ外国宣教師会の神父



フランス人男性



モンドン家(la famille Mondon)
の息女



モンドン家(la famille Mondon)
の家族写真